

様式 4

令和 8 年度第 2 回 富士見市介護保険事業推進委員会 議事録						
日 時	令和 8 年 7 月 3 0 日（木）		開会 午後 1 時 3 0 分 閉会 午後 3 時 0 0 分			
場 所	市民総合体育館 3 階 多目的室 1・2					
出 席 者	委 員	日鼻委員	鳥羽委員	任委員	平澤委員	武長委員
		○	欠席	○	○	○
		田中委員	森委員	松本委員	古内委員	市川委員
		○	○	○	○	欠席
		橋本委員	伊垣委員	佐々木委員		
		○	○	○		
	関 係 者					
事 務 局	健康福祉部 鈴木部長、須藤副部長 高齢者福祉課 島田課長、長谷部副課長、阿部副課長 松尾主査、味戸介護保険係長 大貫主任、早川主事 健康増進センター 山崎所長、平副所長					
公 開 ・ 非 公 開	公開（傍聴者 1 名）					
内 容	《令和 8 年度第 2 回介護保険事業推進委員会》 1 開 会 2 議 事 （1）第 1 0 期富士見市高齢者保健福祉計画策定に向けた現状分析について （2）第 1 0 期富士見市高齢者保健福祉計画策定に向けた課題の整理・方向性の検討について （3）その他 3 閉 会					
議 事 内 容						
【第 2 回介護保険事業推進委員会】 1 開会 事務局より出席委員の数が定足数を満たしていることの確認後開会を宣言 2 議事 （1）第 1 0 期富士見市高齢者保健福祉計画策定に向けた現状分析について						

- ・事務局より資料 1 に沿って説明

<質疑等>

- ・委員 6 ページの認定者数、認定率のところで、要支援 2 と要介護 3 が推計値をなぜ上回ったのか。この推定値と認定率の乖離の理由を把握できていたら教えていただきたいです。
- ・事務局 富士見市は基本的に軽度の認定率の方が多い傾向で、10 ページの図表 11、新規で認定率取得したときに、富士見市は割と重度になってから認定率受けられる方が多いという傾向がこの図表から読み取れるかと思うんですけども。実態としまして富士見市は割と重度になってから認定を受けられる方が多いということで、計画値と特に重度の方が乖離してしまったのかなというふうに考えております。
- ・委員 現場の感覚としてはどうですか。私の感覚で言うと、良くなっているとか、悪化しないで済んでいるというふうにも読み取れる。ですから現場の意見を聞きたいなと思って。
- ・事務局 9 期計画を作るときに、要介護 3、4、5 の方の配分といいますか、予測に悩んだのですが、結果的に要介護 4 に流れるべき方が 3 で収まっているとか、5 になるべき方が 3 で収まっているというふうに数字を捉えておりますので、3 だけが急に増えていると言われてしまいますと、ちょっと違うかなと思います。結果的にはある程度重度化が防止できているというふうな解釈をしています。
- ・委員 介護保険ができた当時は、認定度が緩かったという記憶がある。でも最近介護される方が多くなり、財政上もあると思うのですが、昔だったらこの人は要介護 4 ぐらい取れたのに、今は 2 だとか言っているのを聞いています。そういう部分での乖離はあるのでしょうか。
- ・事務局 現場で見えていますと、おっしゃったように制度ができた頃はどんどん使ってくださいというような風潮があったと思うのですが、それですと、かえって本人のためにならないというのもあります。現在では国の基準にのっとって審査をしておりますので、妥当な結果ではあるかなと思っております。

(2) 第 10 期富士見市高齢者保健福祉計画策定に向けた課題の整理・方向性の検討について

- ・事務局より資料 2 ～資料 4 に沿って説明

<質疑等>

- ・委員 2 ページの 21 番、多様な主体による多様なサービスの展開、と書かれているのですが、先ほど説明してくださった見える化の現状資料 1 から富士見市は施設や居住サービスを利用している方が結構多いですが、そういう何かあるのでしょうか。この場合、実際に施設やグループホームに入所されている方は、このサービスから除外されるのかなと。施設や居住サービス、グループホームなどに入所されていない、地域の中で暮らしている方のみが対象となるのでしょうか。
- ・事務局 おっしゃるとおりこちらは、施設に入っていない在宅の方を対象としたサービスでございます。重度化認定率が高いことから、健康でいる期間を少しでも長くしていただくために、高齢者の方同士で支え合う仕組み等を想定しております。

- ・委員 施設に入っても住所を移さないでいると、そこの居住になるとか、施設に入ると住所をそっちに移すというようなことがあるので、実態を把握するのがかなり難しいというところはある。入居者の中でも全員が富士見市民ではなかったり。そういう意味では把握するのがすごく難しいのかなと思います。施設に入っている人と、本当に困っている独居の人が把握できるようにシステムをうまく活用すれば、どの辺りにそういう人たちが多いのかというのをすることによって少し把握しやすくなるのかなと思っています。各圏域ごとにかかなりバラつきがある。施設が多いところとか。実際に施設が多いところは比較的住民が少ない。各地域によってものすごく差がある。独居の人たちが多いところを洗い出して、それに対するサービスを受けられるような形を進めていければということですよね。
- ・委員 まさに今おっしゃった通り、フレイルチェックとか独居の高齢者の方にすごく大事な部分なので、そういうものがその方に届くように、もう少し深掘りした方がいいのではないかと思います。ありがとうございます。
- ・委員 地域の実情に合った把握をして、それに対するアプローチを進めていくというのが大事になってくるのかなと思います。
- ・委員 資料４の３ページ。地域包括支援センターの新設を検討するということになっているのですが、第１０期では検討するというだけで、この辺りに必要だということを洗い出すだけで終わりになるのでしょうか。それとも既に新設を検討していて、ここに置きそうだということまで具体的になっているのかどうかを知りたいと思いました。あと、今すごく問題になっているのは、地域包括支援センター自体を知らない人があまりにも多いということが問題だと思う。こういう支援のこういう新設になったら、その新設した支援の人たちも、後方支援型と書いてあったのですが、周知するような役割もやってくれるのかどうかということまでわかっていたら教えていただきたいと思います。
- ・事務局 現状、特定の場所等の候補があるわけではございませんし、市役所内部でも議論ができていないわけではございませんので、第１０期計画の中に検討を行うというようなスケジュール感でございます。また、後方支援型の地域包括支援センターに、包括支援センター自体の周知をやってもらうことは考えているのかというお尋ねについてですが、そちらは考えております。
- ・委員 ありがとうございます。１０期ではまだ検討段階でいるということですね。わかりました。

４ 閉会

委員長より閉会のあいさつ